

第3学年 国語科学習指導案

児童：3年2組 男16名 女11名
指導者：八幡 美奈子

1 単元名 一 場面の様子をそうぞうしながら読もう 教材名 「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元について

(1) 教材について

本単元「場面の様子をそうぞうしながらよもう」は、「場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むこと」「読み取った内容について、自分の考えをまとめ一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと」をねらいとしている。

教材「ちいちゃんのかげおくり」は、子どもたちが出会う最初の戦争文学教材である。空襲によってひとりぼっちになり幼い命をうばわれたちいちゃんを通して、家族が一緒にいることの幸せや平和の大切さを描いた作品である。

文章は、5つの場面に分けられる。時間の経過に従ってちいちゃんをめぐる出来事がはっきりしているのも、場面設定が明確である。会話文やその前後にある「ぼつんと言った」「なくのをやっところえて言いました」などの言葉は人物の心情を想像する手がかりとなっている。「ちいちゃんの耳には」「ちいちゃんの目に」というようにちいちゃんの視点から描かれている場面もあり、子どもたちは、物語の展開に沿ってちいちゃんに寄り添いながら読み進めることができ、それぞれの場面で、ちいちゃんの言動や様子を表す言葉に着目しながらちいちゃんの心情にふれて読み取っていくことができる。さらに、場面ごとのちいちゃんの様子を想像したり比べたりするなど、場面と場面を関係付けて、ちいちゃんの家族に対する思いを読み深めることができる。

以上の点から、本教材は登場人物の様子や気持ちを、大事な言葉に気を付けて想像しながら読むことに適した教材であると考えられる。

(2) 子どもの実態

子どもたちは読むことの学習として、「きつつきの商売」や「三年とうげ」を通して、叙述をもとに場面の様子を想像しながら読んだり、様子が分かるように声に出して読んだりすることを学習してきている。

これらの学習を通して、登場人物の行動や会話の中に様子や気持ちを表す表現があることに気付き、目を向けるようになってきている。言葉や文を手がかりに登場人物の気持ちや様子を想像して読むことのできる子どもは増えてきているものの、断片的な読みをつなげて、よりの確に気持ちや様子を読み取る力は十分ではない。

本校の研究内容である「教材文とのかかわり」では、登場人物の会話文や行動を表している部分を見つけ、サイドラインを引き、書き込みをし、全体で様子や気持ちを読み取っていく学習をしてきた。叙述をもとに自分なりに想像して書き込むことができるようになってきている。しかし、書き込んだ内容は、言葉の意味や書き換えになっている子どもが多く、前後の文と関わらせてより叙述に即した書き込みができる子どもはまだ少数である。

「友達とのかかわり」では、一人学びの後にペアで考えを伝え合い、全体での話し合いをしている。話すことに慣れてきて、発言できるようになってきた子どももいる。ペアでの伝え合いの活動後であっても、発言することに消極的になってしまう子どもも少なくないが、自分の読みを出し合い、友達と新たな読みを発見し読み深めていくおもしろさに気付き始めている子どもも出てきている。

(3) 指導にあたって

①教材文とのかかわり

「ちいちゃんのかげおくり」の学習では、戦争を時代背景とする作品であるため、時代背景や生活の様子を実感を伴って理解することは難しいことと思われる。そこで、読み聞かせや並行読書を取り入れていく。また、戦争当時の人々の様子を調べさせたり、理解が困難な語句については説明を加えたりして進めていきたい。そして、この作品で対照的にえがかれている二つの「かげおくり」や「戦争中と戦後の平和な時代」についてその共通点や相違点に気付かせ、読みを深めていく学習にしたい。

「学習計画」の段階では、学習のまとめが読書会であることを知らせ、読み聞かせや本の紹介を行い、並行読書への意欲をもたせたい。また、読書を通して戦争の様子や当時の人々の生活の様子をとらえたり、戦争について考えていくことができるようにしたい。

「課題追究」の段階では、叙述をもとに想像豊かに読み取っていくために、読み取りの視点を明確にもたせたい。視点をもつことで言葉や文を選ぶ力がつき、断片的な読みをつなげて、様子や気持ちをよりの確にとらえることができるようになる。ちいちゃんの行動や会話、ちいちゃんをとりまく周囲の様子に着目させながら、読み取らせたい。重要語句や中心文に着目し、サイドラインを引く・視写する・書き込みをするなどの言語活動を行い、自分の読みをもたせたい。また、場面と場面、繰り返しの言葉、言葉の使い方や表現の仕方など、比べて読むことを取り入れ、想像しながら

読む力を養っていききたい。

「課題解決」の段階では、各場面の様子を思い出しながら、ちいちゃんや戦争に対する感想を書き、交流することで考えを深めさせていきたい。

「発展」の段階では、戦争を題材にした作品を並行読書し、最も心に残った作品について感想を書き友達に紹介するという読書会を行い、戦争に関する作品にできるだけ多くふれさせ、平和について考えさせていきたい。

②友達とのかかわり

一人一人が読み取ったことや感想を出し合い交流する中で、自分の気付かなかった考えや自分と違う感じ方があることに気付かせ、学習を深めていきたい。そのために、まず自分の読み取りを発表できるように、視写をした文に書き込みをさせ、ペアで考えを伝え合い自信をもたせることで全体の場での発表につなげたい。ペアで話し合うことのよさ、話す楽しさを子ども自身が感じることができるよう、ペア学習を進めていきたい。友達の発表を聞く際には、自分の考えと比べながら聞くことを心がけさせ、友達の考えにつなげて発表ができるようにしていきたい。

自分の読みを出し合い、友達と新たな読みを発見し読み深めていくことを通して、学び合うことで読みが広がったり、深まったりする楽しさを全体のものにしていきたい。

3 単元の目標

観点	目標
国語への関心・意欲・態度	・ 言葉や表現に着目して、場面の様子やその移り変わりを想像しようとする。
読む能力	・ 「ちいちゃんのかげおくり」を読み、場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。(ウ) ・ 心に残った場面や内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。(エ)
言語についての知識・理解・技能	・ 文章における言葉の使い方に気を付け、理解するために必要な語句の量を増し、使い方の範囲を広げることができる。(エ(ア))

4. 単元の指導計画と評価規準 (11時間 読むこと11時間)

段階	時間	○学習の目標 ・主な活動	評価規準 (評価方法)		
			国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
学習計画	1	○ 学習の見通しをもつことができる。 ・戦争を題材にした絵本の読み聞かせや本の紹介を聞き並行読書への意欲をもつ。 ・読み取りをした後に読書会をすることを知る。 ・全文を通読し、感想を書く ・ 感想を交流する。	・ 「ちいちゃんのかげおくり」に興味をもち、感想をもとうとしている。(ノート・発言)	・ 題名やリード文から「ちいちゃん」の人物像や「かげおくり」について想像を広げている(挙手・発言)	
	2	○ 学習の見通しをもつことができる。 ・時や場の設定、登場人物、難語句を確認する。 ・ 新出漢字の練習をする。	・ 時や場の設定、登場人物、難語句を調べようとしている。(ノート・発言)	・ 時や場の設定、難語句に気を付けて読んでいる。(ノート・発言)	・ 新出漢字の読み方や書き方を理解し、難語句に気を付けて読んでいる。(ノート・発言)

課題追究	3	○ 場面のつながりのだいたいをとらえ、学習のめあてをもつことができる。 ・場面分けをし、学習計画を立てる。	・場面のつながりのだいたいをとらえ、学習計画を立てようとしている。 (ノート・発言)	・詳しく読んでみたいところや友達との感想の違いに着目し学習のめあてを考えている。 (ノート・発言)	・漢字や語句について理解している。 (音読)
	1	○ 家族みんなでかげおくりを楽しむ様子を読み取ることができる。 ・家族の会話文や行動に着目しながら読み取る。	・家族の会話文や行動に着目しながら読み取ろうとしている。 (ノート・発言)	・家族みんなでかげおくりを楽しむ様子を読み取っている。 (ノート・発言)	・会話文、行動、様子を表す言葉に気を付けて読んでいる。 ・複合語に気を付けて読んでいる。 (発言・ノート)
	2	○ お母さんとはぐれてしまったちいちゃんの様子を読み取ることができる。 ・ちいちゃんの会話文や行動周囲の状況を表す言葉などに着目しながら読み取る。	・ちいちゃんの会話文や行動、周囲の状況を表す言葉などに着目し、ちいちゃんの様子を読み取ろうとしている。 (ノート・発言)	・お母さんとはぐれてひとりぼっちになるちいちゃんの様子を会話文や行動、周囲の状況を表す言葉に着目しながら読み取っている。 (ノート・発言)	・会話文、行動、様子を表す言葉に気を付けて読んでいる。 ・ダッシュの使い方を理解している。 (ノート・発言)
	3	○ 防空壕で待ち続けるちいちゃんの様子を読み取ることができる。 ・ちいちゃんの会話文や行動周囲の状況を表す言葉などに着目しながら読み取る。	・ちいちゃんの会話文や行動、周囲の状況を表す言葉に着目しながらちいちゃんの様子を読み取ろうとしている。 (ノート・発言)	・ひとりぼっちになった寂しさと家族を待ち続けるちいちゃんの様子を読み取っている。 (ノート・発言)	・会話文、行動、様子を表す言葉に気を付けて読んでいる。 (ノート・発言)
	4 本時 4 ／ 5	○ 一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を読み取ることができる。 ・1の場面のかげおくりと比較し、二つのかげおくりの違いを表す言葉に着目しながら読み取る。	・二つのかげおくりの違いを表す言葉に着目して読もうとしている。 (ノート・発言)	・二つのかげおくりの違いを表す言葉に着目し、ちいちゃんが一人でかげおくりをする様子を読み取っている。 (ノート・発言)	・会話文、行動、様子を表す言葉に気を付けて読んでいる。 (ノート・発言)
	5	○ ちいちゃんと何十年後の平和な情景を対比し、平和の大切さを感じ取ることができる。 ・今までのちいちゃんの様子を確認し、現在の平和な様子を読み取り、平和の大切さを話し合う。	・何十年後の平和な情景を読み取り、ちいちゃんが生きた時代と比較し、平和の大切さを感じている。 (ノート・発言)	・「きらきら」に着目し、ちいちゃんが生きた時代と何十年後を比較して読み取っている。 (ノート・発言)	・重要な語句を増やしている。 (ノート・発言)

課題解決	1	○ 各場面の様子を思い出しながらいちちゃんや戦争に対する感想を書き、交流することができる。 ・ 感想を書く。 ・ 感想を友達と交流する。	・ まとめの感想を書き、交流しようとしている。 (ノート・発言)	・ 友達の感想を聞いたり、読んだりして自分との違いやよさに気付いている。 (ノート・発言)	・ 心に残った言葉や表現に気を付けて読んで友達の感想を聞いたり、読んだりしている。 (ノート・発言)
	発展読書	1	○ 戦争を題材にした作品を読み、特に心に残った作品を選び、感想を書くことができる。 ・ 心に残ったことや戦争や平和について考えたことを書く。	・ 作品を読み、心に残ったことや考えたことを書く。 (カード・態度)	・ 作品を読み、心に残ったことや考えたことを書いている。 (カード)
	2	○ 読書会をし、感想を交流することができる。 ・ グループ毎に、カードに書いた感想を交流する。	・ カードに書いたことを交流し、互いのよいところを見つけ伝えようとしている。 (態度・発言)	・ カードに書いたことを交流し、互いのよいところを見つけ、伝えている。 (発言)	・ 表現したり理解するために、必要な語句を増やしている。 (感想カード・発言)

5 本時の学習（課題追究4 / 5）

(1) 学習の目標

ちいちゃんが、一人でかげおくりの様子を1の場面と比べて想像しながら読み取ることができる。

(2) 評価規準

【読む能力】

二つのかげおくりの違いを表す言葉に着目し、一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を読み取っている。

(3) 展開

段階	学習活動	教師のはたらきかけと評価
課題把握と見通し 3分	1 前時の学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で家族の帰りを待つちいちゃんの気持ちや様子について想起させる。 ・ 一斉読をし、課題を把握させる。 ・ ちいちゃんの会話文、行動、様子を表す言葉に気を付けながら読むこと、1の場面のかげおくりと比べて読み取っていくことを確認し、課題解決につなげるようにする。
	2 本時の学習場面と課題をつかむ ちいちゃんはどんなかげおくりをしたのだろう。	
	3 課題解決への見通しをもつ	
課題追究	4 本時の学習場面を音読する。 5 一人でかげおくりをするちいちゃんの様子を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲を喚起し、学習範囲を共有するため、一斉読をさせる。

27分	<p>(1) ちいちゃんの体の状態を読み取る。</p> <p>(2) 1の場面と比べて、ちいちゃんの様子が一番違う文を見つけて、サイドラインを引く。</p> <p>(3) 「ちいちゃんは～数えだしました。」までを視写し、ちいちゃんの様子を想像して書き込む。 (一人学び)</p> <p>(4) 書き込んだことをもとに、体が弱っていて立つことも大変なちいちゃんが必死になってかげおくりをしているわけを話し合う。</p> <p>(5) 二つのかげおくりがちいちゃんにとってどんなものだったかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「暑いような寒いような気がしました」「ひどくのがかわれています」に着目させ、ちいちゃんの状態が悪い様子を読み取らせる。 ・ ひとりぼっちになって、どのくらい時間がたったのか押さえさせる。 ・ 1の場面のかげおくりと比べて考えさせ、ちいちゃん一人のかげおくりであることを押えさせる。 ・ 「ふみしめる」「立ち上がる」「たったひとつ」「見つめながら」「数えだす」に着目させ、ちいちゃんの様子を書き込ませる。 (教材文とのかかわり) ・ 書き込んだことをペアで伝え合う。 (友達とのかかわり) ・ 「～さんと同じで」「～さんと似ていて」等の言葉を使って自分の考えを発表させたい。 ・ 体が弱っているのに必死になってかげおくりをしているわけを考えさせることで、家族に会いたいというちいちゃんの痛切な願いを考えさせる。 ・ 最後の力を振り絞ったかげおくりであることに気付かせる。 ・ 1の場面と比べて、幻想の中でのかげおくりであったことに気付かせる。 (友達とのかかわり) ・ ちいちゃんの死にふれ、家族に会えてよかったが、ちいちゃんが死んでしまう悲しいかげおくりであったことに気付かせる。 (教材文とのかかわり)
課題解決 10分	<p>6 ちいちゃんは、どんなかげおくりをしたのかをまとめる。</p> <p>(1) 視点に沿ってノートにまとめる。 ＜視点＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① たった一人のかげおくり ② 願いがかなって家族に出会えたがそれは幻想のかげおくり ③ かげおくりをするちいちゃんの気持ち <p>(2) まとめたことを発表する。</p> <p>(3) 本時の学習場面を音読する。</p>	<p>【具体の評価規準（方法）と指導の手だて】</p> <p>願いがかなって、やっと家族に会うことができみんなでかげおくりをしたが、それは幻想の中のかげおくりで、ひとりぼっちのかげおくりだったことを書いている。(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ちいちゃんは、家族のみんなにとても会いたかったから最後の力をふりしぼってかげおくりをした。でも、それはたった一人のかげおくりで悲しいかげおくりだった。 ・ 幻想の中でのひとりぼっちのかげおくりだったことを書くことができた子どもには、視点③についても書かせる。 ・ 書くことができない子どもには、ヒントカードを与えまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3名に発表させる。 ・ 読み取ったことをもとにちいちゃんの様子分かるように音読させる。 (指名読み 1名)

<p>ま と め</p> <p>5 分</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p> <p>8 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えが更に深まった点や、友達の発表から新たに気付いた点、感想等を発表させる。 • 2～3名に発表させ全体に広めるとともに、児童が気づかなかった頑張りや、よさを教師が補足し意欲につなげる。 • 5の場面の学習の予告をする。
-------------------------------------	---	---